

【全体概要】

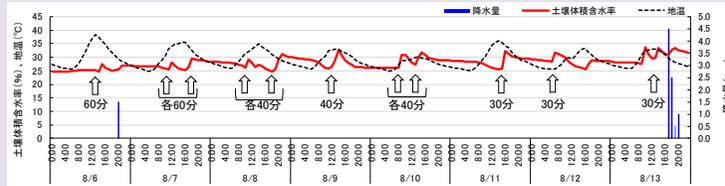
本県におけるにんじんの種時期は、7～8月の高温・乾燥条件下に当たることから、株立が不安定となりやすく、は種以降の初期生育の確保が課題となっている。そこで、株立率向上を図るため、水分センサを活用し、土壌条件や地温に基づいたかん水管理技術を確立し、収量の安定化を図る。あわせて、高温障害に強い品種の選定を行い、品質向上を図る。

新品種・新技術等の概要

- 土壌条件（土壌水分率）に基づいたかん水による株立安定化の実証
 - 水分センサを利用した土壌条件の見える化とそれに応じたかん水管理
- 土壌肥沃度に応じた適正施肥及び品種比較による安定生産
 - 可給態窒素分析の実施とそれに応じた適正施肥の検討
 - 高温耐性品種の品質・収量の検討（品種：「翔馬」、「アヤジェンヌ16」）



水分センサ(FT Jr)の設置
(設置位置: 地表から2cm下)

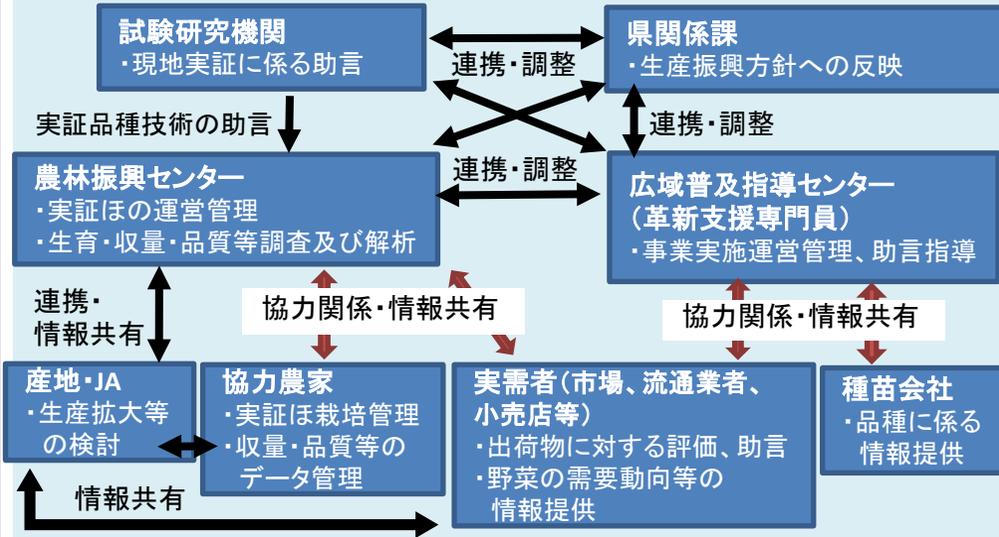


かん水期間における土壌水分率、地温及び降水量の推移（実証区A）
※矢印はかん水を実施した日時、数字は1回当たりのかん水時間を表す。

主な取組内容

- 【検討会】
 - 現地実証ほ設置・現地・成績検討会の開催（5、8、1月）
- 【技術の現地検証】
 - 土壌条件（土壌水分）に基づいたかん水の実証（4か所）
 - 高温障害耐性2品種の実証（2か所）
- 【栽培・技術マニュアルの作成】
 - 令和4年度の実証結果に基づき、にんじんの株立率向上に向けたかん水技術等を記載した「夏まきにんじん栽培マニュアル（品質・収量向上対策）」を策定

実施体制図



実績と今後の展開

- 【実績】
 - 可給態窒素分析に基づく適正施肥や水分センサを活用したかん水技術等を記載した「夏まきにんじん栽培マニュアル（品質・収量向上対策）」を策定し、研修会等で農業者に配布（約100部）した。
 - 高温障害に強い有望な2品種を選定した。
- 【今後の展開】
 - 水分センサの設置方法や測定値の活用について、研修会等で紹介し、普及拡大を図る。
 - 選定した2品種のうち、「アヤジェンヌ16」の普及拡大を図る。